

令和元年度 金沢ベーシックカリキュラム実践推進事業 報告書

学校名	研究課題	研究手法
大徳中学校	教科一般	学習評価の充実

1 研究の重点と具体的な取組

(1) 重点1 組織力を生かした共通実践の工夫

生徒の学習意欲を高める授業内容と指導方法について工夫・改善を進める。

①教科部会の充実

各教科における授業内容や指導方法の検討、及び教科独自の取組や全教科共通の実践内容等について確認・実践する。

②拡大学年会の実施

相互授業参観を通して、教科の枠を越えて生徒の実態を把握するとともに、共通実践の確認を行う。

③校内研修会の充実

全教科で共通実践した取組について、その実態を検証し、改善を重ねる。

(2) 重点2 対話力育成のための工夫

学習形態や思考を深める手立ての工夫をすることで、「話す力」「聴く力」の育成を目指す。

①思考課題や思考を深める手立ての工夫

生徒が疑問をもち、考えたいような思考課題を設定し、まとめとの整合性を図るとともに生徒の思考や対話を促す。また、「課題」と「まとめ」の板書の仕方を全教科で統一する。



②学習形態の工夫

ペア・グループ学習の進め方を全教科で統一し、互いの考えを積極的に伝え合うことを通して、「話す力」「聴く力」を育成する。その際、目的を明示することで話し合いを焦点化し、思考の深まりが見られるように工夫する。



(3) 重点3 学習評価の工夫

生徒の自己肯定感を高めるために、個性や価値を自分で認めることができる評価方法（自己評価）を工夫する。

①ルーブリックの提示

各教科の様々な場面において目指す姿をルーブリック表に整理し、段階的に示すことで、生徒が目標をもって学習に取り組めるようにする。



②自己評価表の活用

生徒が自分の学習を振り返り、ルーブリック表をもとに10段階（S・A・B・C）で自己評価を行う。そこでは、成長の変容がわかりやすいようにグラフで表すこと、疑問や感想等を記入する欄を設けることを全教科共通で行う。

2 取組の検証

(1) 教員アンケートより

「思考課題の提示」及び「ペア・グループ学習の実施」については全教員が意識して取り組めるようになった。また、相互授業参観週間の様子から、ペア・グループ学習を行う際の目的についても、提示している教員が増加してきていることを確認できた。

(2) 生徒アンケートより

「思考課題の提示」「ペア・グループ学習の実施」「授業による思考の深まり」は、肯定的な回答がいずれも昨年度より向上している。特に、「ペア・グループ学習」「思考の深まり」についてはその向上が著しい。

(3) 自己肯定感アンケートより

「自分にはよいところがある」の肯定的な回答が増加した。特に、1年生で肯定的な回答の伸びが目立ち、「よくあてはまる」と回答した生徒の割合も全体的に増加している。

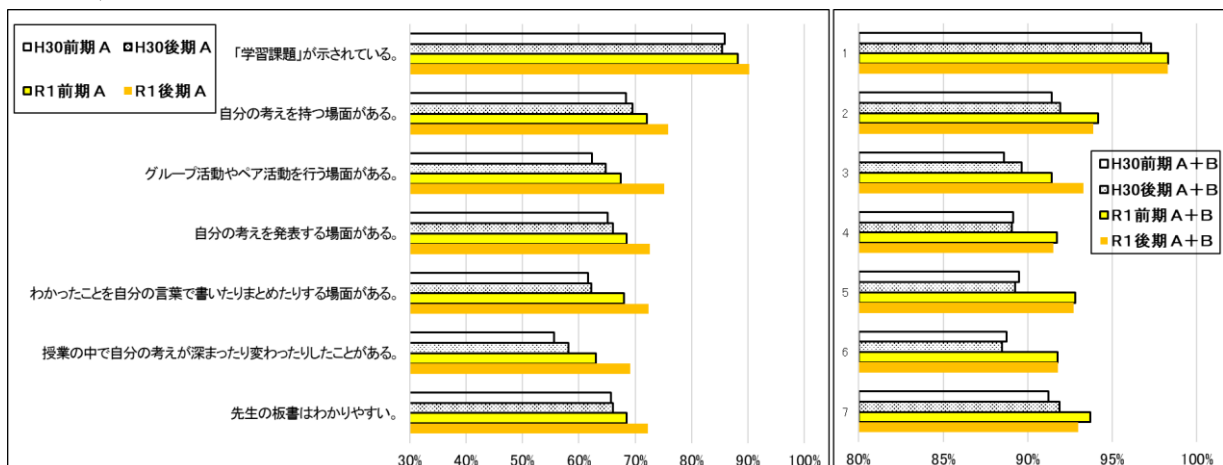
(4) 自己評価表の活用

自己評価表から生徒の変容や気づき、感想等を知り、授業改善に生かすとともに、生徒の自己肯定感を高める指導へとつなげることができた。また、教師のコメントを励みに学習意欲を高める生徒の姿も見られた。

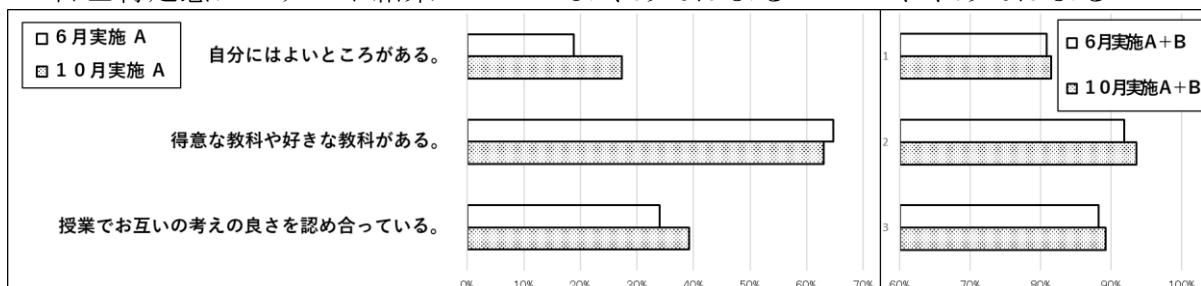
(5) 外部講師による指導・助言

共通実践として取り組んできたことが、生徒の自己肯定感を高め、思考を深める学習につながっているかどうかを、金沢大学加藤准教授に授業を参観していただき、ご指導・ご助言をいただいた。

<生徒アンケート結果> A…よくあてはまる B…ややあてはまる



<自己肯定感アンケート結果> A…よくあてはまる B…ややあてはまる



3 成果と課題

(1) 成果

①学校の組織力及び教員の指導力について

「ペア・グループ学習の進め方」「自己評価表の活用」等、教科の枠を越え、共通実践を行うとともに、全教員で検証し、改善策を検討することができた。また、全教員が指導案を書き、研究授業を行ったことも、学力向上に向けての方向性を話し合う中で有効であり、指導力向上にもつながった。

②生徒の学習意欲及び学力の向上について

ルーブリック表をもとにした自己評価は、生徒自身が客観的に自分を見つめ、自分に合ったレベルの目標を設定でき、具体的な姿をイメージした主体的な学びへとつなげることができた。また、教員が振り返りに目を通すことで生徒の実態や次時への課題がわかり、さらに教員からのコメントを生徒が読むことで学習意欲を高められ、双方にとって自己評価は有効であったと考える。

「思考課題の提示」「ペア・グループ学習の充実」は、学習内容を自分の言葉でまとめる場面や思考を深める手立てとしても有効であり、学力向上にもつながったと考える。

③生徒の自己肯定感について

「ペア・グループ学習」を全教科で積極的に取り入れたことにより、話し合いが円滑に進むようになった。それが、互いの良さを認め合える雰囲気をつくることや自己肯定感の向上につながったのではないかと考えられる。

(2) 課題

①教員の指導力について

共通実践してきた内容について、その成果を共有し、今後さらに継続・発展させていくことで指導力向上を目指す。

②生徒の学力向上について

ペア・グループ学習が形骸化しないように、自分の考えをもたせた上で話し合わせることを意識し、話し合いの目的や視点を明確にすること、各々の役割を明確にすることを意識し、対話による思考の深まりが見られるような学習活動にしていくことが今後の課題である。

③生徒の自己評価について

ルーブリックについて、今後は教員の評価規準として使われるA・B・C評価との整合性についても検討し、生徒がより客観的に自分を見つめ、評価できるようにしていくことが大切である。